

令和4年度第1回肝属保健医療圏地域医療構想調整会議（書面会議） 開催結果

標記会議は、新型コロナウイルス感染症の発生状況や事案の内容等を鑑み、書面開催とさせていただきました。

1 意見集約期間

令和5年3月13日（月）から令和5年3月23日（木）まで

2 委員（委員名簿のとおり）

3 内容

(1) 報告事項

- ・鹿児島県地域医療構想調整会議の報告
定量的基準の改訂について
- ・令和3年度病床機能報告集計結果について

(2) 協議事項

- ・令和3年度病床機能報告集計結果と定量的基準との照合結果について
- ・個別の医療機関に係る具体的対応方針について
- ・公立病院経営強化プランの素案に対する意見について
- ・今後の会議の進め方について

4 委員の意見等

(1) 報告事項

全委員21人のうち、「意見なし」等が15人、他6人の意見等については以下のとおり。

意見
・今後の地域医療構想の必要性を感じる。
・高度急性期に対応できる医療体制の充実が望まれる。
・急性期でも、高度急性期に対応している施設もあり、高度急性期病院数が増加してよいと考える。
・昨年度の医療機関ごとの具体的対応方針のとりまとめ結果では回復期と慢性期の不足が見込まれていたが、今回医療機関報告によれば回復期は充足する見通しであった。今後慢性期について調整が図られることを期待している。
・肝属医療圏2025年の予定病床数として146床削減されており必要病床数に近づいているといえるが、医療機能のバランスがとれていない。この点が今後の課題ではないかと考える。
・肝属圏域の機能別許可病床数は2021年に対し2025年は回復期と介護保険施設等は増加のみであることは、地域医療圏構想における病床数の必要量に沿った内容であるが、急性期の病床数減少は、今後、新型コロナウイルスの様な感染症が発生した場合に医療圏内で対応できるのか、懸念される。

【事務局】

肝属保健医療圏の2025年の予定では、高度急性期は横ばい、急性期と慢性期は減少し、回復期と介護保険施設等は増加する見込みとなっている。

急性期の減少と回復期の増加は、医療構想に近づくものである一方、高度急性期は増えておらず、特に慢性期は減少傾向で、医療構想の必要病床数との差は開きつつある。御指摘のとおり、医療機能のバランスがとれていない現状があると思われる。

今後は、新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ、他圏域との協力体制や、2025年及びその先を見据えて地域の病床を検討していく必要がある。

(2) 協議事項

ア 令和3年度病床機能報告集計結果と定量的基準との照合結果について

【結論】

令和3年度病床機能報告集計結果と定量的基準の照合結果に差異のあった管内4医療機関について、全委員21人のうち、「意見なし」もしくは「報告に納得する」という意見が19人、変更を求める意見が1人、定量的基準の見直しを求める意見が1人であった。（以下のとおり）

よって、地域医療構想調整会議としては、医療機関が選択した病床機能を選択して差し支えないこととする。

意見
・春陽会中央病院およびおぐら病院は慢性期ないしは、高度急性期への変更が必要と考える。
・各施設の実態により異なると思うが、あくまでも定量的基準（入院基本枠）に合わせるか、定量的基準についても見直しが必要かと考える。

イ 個別の医療機関に係る具体的対応方針の変更について

(ア) 肝属郡医師会立病院の具体的対応方針の変更について地域医療構想調整会議としての合意の有無

【結論】

肝属郡医師会立病院の具体的対応方針の変更については、全委員21人から「合意する」との意見をいただいたため、地域医療構想調整会議として合意する。

意見
・地域に急性期に対応できる医療機関がなくなるのであればドクターヘリを含めたより一層の救急搬送体制の充実が必要。
・今後の人口減少、在宅医療への移行を考えるとやむを得ないと思う。
・回復期病床を増加することは、地域医療圏構想の実現に向けて理解できるが、一方で急性期の病床がなくなるといことは、急性期の病床を持つ鹿屋市内の医療機関に影響が生じることになるということか。
・今後の医療需要等を踏まえて適切なものと理解する。急性期の対応について他の医療機関等との連携が図られるようお願いしたい。

(イ) 病床を廃止し、無床診療所に変更された医療機関について

全委員21人のうち、「意見なし」等が17人、他4人の意見等については以下のとおり。

意見
・医師の年齢や後継者などの問題なのか。
・診療所が無床になっても在宅診療、訪問につなげていけば病院との役割分担が図られると考える。
・各々の医療機関に同様な現実的対応・事情があるため、経営主体である医療機関の意見を尊重すべきと考える。
・残念なことだが、継続者不足と医師の高齢化が進む現状では致し方ないと思う。

【事務局】

病床廃止の理由については、医師の体調面や施設の設備面の問題など様々である。

ウ 公立病院経営強化プランの素案に対する意見について

県民健康プラザ鹿屋医療センターの策定段階の素案に対して

全委員21人のうち、「意見なし」、「良いと思う」等が14人、他7人の意見等については以下のとおり。各委員の意見を、地域医療構想調整会議の意見として同院へ提供する。

意見
・公立の地域中核病院としてなくてはならない医療機関であるので医師確保に注力して素案にある目指す将来像を是非具現化して欲しい。
・素案は素晴らしい。問題は如何にして実現されるかということ。県が予算面でしっかりサポートしてくれないと実現は難しいのではないか。
・強化プランに上げている当地域に不足している高度急性期、小児、周産期医療の充実が求められており問題ないと思う。
・長期的目標の中の、地域に必要な診療科（消化器内科・呼吸器外科）の開設と休診中の診療科（整形外科・耳鼻咽喉科）の再開は、地域にとって大変よいこと。一方で、令和4年度には脳神経外科が休診されたとの情報がある。これは地域に必要な診療科は足りているという判断であるか。
・大隅地域の中核的医療機関として、地域がん診療病院、小児・周産期医療等について、なくてはならない拠点機関である。機能継続のために国のフォローアップ体制をお願いしたい。
・救急医療部門の範囲が対応できなくなっている現状があり、早急な県と大学を含めた検討が必要と考える。

- ・鹿屋医療センターは令和5年度より始まる第3次中期事業5年計画に従って病院運営を進めていく方針である。基本方針に大きな変化はない。

エ 今後の会議の進め方について

全委員21人のうち、「意見なし」、「案のとおりで良い」等が17人、他4人の意見等については以下のとおり。

意 見
・コロナ禍の影響もあつてのことか、ここ数年は書面開催が続いている。他の会議のように対面とオンラインのハイブリッド開催を検討してはどうか。
・書面開催ではなく、協議できる場（ZOOM形式等も含め）の設定を要望する。
・コロナも落ち着いてきているので、次回からは集まっての会議にしてもよいのではと思う。日頃医療に関わる会議が多い訳ではないため、資料だけではなかなか理解が難しい。
・大隅地域の医療資源を総合的に評価して考える必要があると考える。

【事務局】

会議の開催方法や内容等についても、今後検討したい。

(2) その他

全委員21人のうち、「意見なし」等が18人、他3人の意見等については以下のとおり。

意 見
・民間と公立、元々持っている診療所機能でも変わってくると思うが、医療資源が不足している昨今、事業を維持し雇用を確保することは厳しい状況が続いている。このような状況で具体的な方針はなかなか出せないと思うが、中長期的には機能分化や減床をせざるを得ない時期が来ると考えている。
・地域医療圏構想について、自治体に対して参考になるような資料や動画等があると助かる。もしくは事務レベル向けの研修会等の開催を検討してほしい。
・公立病院を持つ本町の経営強化プランの策定にあたり、圏域的な助言者として大隅地域振興局のバックアップを希望する。

【事務局】

来年度は公立病院経営強化プランの策定年度となっている。管内には公立病院が3医療機関あることから、他の医療機関の進捗状況を確認しつつ、県保健医療福祉課とともに各医療機関のバックアップを図りたい。

今回いただいた御意見等を踏まえ、今後も地域医療構想に係る様々な問題を会議の中で協議・検討したいと考える。